

令和元年7月20日～22日（梅雨前線） 弥栄ダムの「特別防災操作^{※1}」による治水効果【速報】

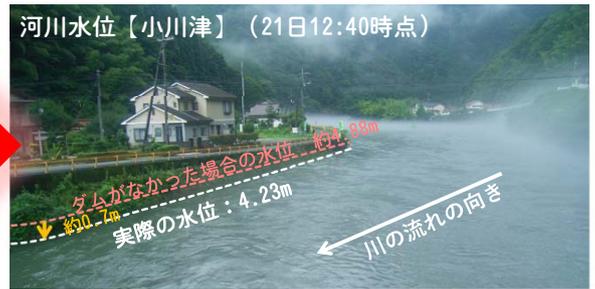
山口県岩国市小瀬の小川津地点でピーク時の河川水位を約70cm低減



【状況】

- 令和元年7月20日から7月22日にかけて梅雨前線の影響による雨により、弥栄ダム流域平均累加雨量は191mmを記録しました。
- 弥栄ダムでは、ダムへの流入量が最大で毎秒約361m³に達し、このうち毎秒約93m³の洪水をダムに貯めました。
- 今回の雨により弥栄ダムが貯めた水の量の合計は、約187万m³でした。

弥栄ダムによる効果（弥栄ダムより2.5km下流小川津地点）

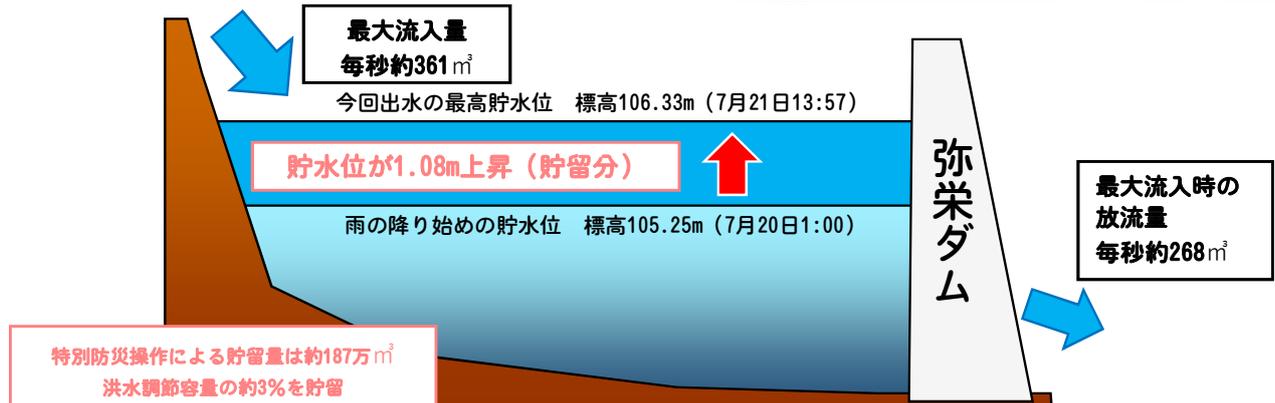


今回の洪水のダムへの貯留状況

ダム貯水位（通常時）



ダム貯水位（21日14時時点）



※1 特別防災操作とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じ、今後の予測降雨量やダムの残りの貯水容量を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を通常よりも減じる操作です。ただし、今後多くの降雨が予想される場合は実施できません。
注）各数値は速報値であり、今後変わることがあります。

令和元年7月20日～22日（梅雨前線） 弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果【速報】

